

## 令和２年度 宇多津町社会福祉協議会事業報告

### 1. 概 況

「団塊ジュニア」が全員高齢者となる２０４０問題が迫り、社会的孤立や経済的困窮の増加等による社会的構造の変化が深刻化しつつある中、令和２年１月に初の感染者が確認された新型コロナウイルス感染症は現在も世界において大きな問題となっている。新型コロナウイルス感染症は、我国においては翌２月末から発症者の拡大が始まるとともに、全国を対象とした緊急事態宣言のもと学校休業やテレワーク、Ｗｅｂ会議など、感染拡大防止の対策が進められてきた。

そのような中、地域福祉の増進と介護保険事業の担い手として宇多津町社会福祉協議会はその大きな責務を果たすべく関係者が一体となって取り組んできた。互いに支え合う「地域共生社会」の実現を目指し、誰もが安心して安全に暮らすことのできる社会づくりを果たすため、各種地域福祉事業の推進に努めてきた。

生活支援体制整備事業においては、平山お助け隊による「地域支え合い活動実践報告会」に基づいて作成し町内に配布した「生活に役立つ便利な情報マップ」の取り組みを踏まえ、地域の要望や意見を収集し、地域において何ができるのか検討を重ねた。十楽寺地区においても同様の取り組みを実施している。

社協運営基盤となる社協資産については、介護収入の減少や各種の諸経費の増加等により年々減じている現状であるが、より魅力ある事業転換を視野に入れ、利用者等の増加を図るとともに、事業の合理化や不採算事業のあり方について整理分析・検討を行い、中期的視野による運営基盤の整備を図っていきたい。

ここ数年、社協事務局においては正規職員及び臨時職員の年度途中の退職が見られ、補充のための採用に努めているものの、十分な成果がなく若干の人員不足の状態で令和３年度を迎えることとなっている。今後も必要に応じ人確保に努めるとともに、職場環境等の改善を図り良好な勤務体制を確立し、さらなる宇多津町の地域福祉の推進・拡充に寄与していきたい。

令和２年度事業等の細部は、次の９項目を重点に実施した。

- (1) 地域福祉活動の推進
- (2) 介護保険事業の充実
- (3) 障害者自立支援事業の充実
- (4) 生活困窮者自立相談支援事業の推進
- (5) ボランティア活動の推進
- (6) 福祉関係団体等活動協力と連携
- (7) 法人運営の強化
- (8) 権利擁護の推進
- (9) その他福祉活動への協力

## 2. 事業経過報告

### (1) 地域福祉活動の推進

#### ① ふれあいいきいきサロンの推進

町内の高齢者や障害者等、地域の中で孤立して閉じこもりぎみに暮らしている人たちが、いきいきと元気に暮らせることを目的としてサロン活動を行った。

令和2年度はコロナ禍で活動自体を見合わせたサロンもあり、令和3年度申請においては継続自体が難しく、3か所減の29サロンとなっている。サロン代表者の後継適任者不足、会食やカラオケ等を含まないサロンの新しいあり方が今後の課題となった。

年度ごとの箇所数は次のとおり。

年 度	箇所数
平成28年度	29
平成29年度	28
平成30年度	33
令和元年度	32
令和2年度	32

また、年1回のプログラムメニュー研修会を実施し、各サロンのより魅力的な運営に寄与した。

これ以外の研修会については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施できなかった。

#### ② 共生型サロンの推進

昨年度に引き続き、毎月第1・第3水曜日を定例として、地域で暮らす高齢の方、子育て中の親子や障がいのある方など誰もが自由に集い交流できるみんなのサロン「とも・とも」の活動を行ってきた。

あみのうら交流センターで開設している「とも・とも」も定着し、楽しみに参加される方も増えてきた。折り紙の時には、若いお母さんが高齢者に折り方を教えていたり、高齢者が子どもたちの表情やかわいい仕草に元気をもらって笑顔になったりする場面がたくさんあった。

また、季節行事（流しソーメンと盆踊り）や餅つき大会、あん餅雑煮も好評で、大勢の子どもたちや高齢者の参加があって交流を深める機会となっていたが、コロナ禍により活動が自粛されるようになり、以前のような季節行事は中止となった。

気軽に集い、交流できる「とも・とも」を楽しみに集ってくださる方々の思いを大事にしながら、今後も地道に活動が続けていきたい。



＜みんなのサロン ともとも参加人数＞

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
親	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1
子ども	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1
高齢者	0	0	7	12	9	13	13	14	13	11	11	10
Vo・スタッフ	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
合計	0	0	11	7	15	17	19	20	17	15	15	16

※4月、5月はコロナ禍の影響により開催せず。

③ 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業

香川おもいやりネットワーク事業を生かし、社会福祉法人・社会福祉協議会・民生委員児童委員との連携により、何でも相談できる窓口（福祉まるごと相談窓口）を町内に5か所（社協・陽だまり・寿楽荘・いきいき荘・マイルドハート21）設置するとともに、「巡回型福祉まるごと相談」として、民生委員、施設法人及び社協がチームを組み町内の居場所を訪問し、困りごとをキャッチする取り組みを行うなどアウトリーチの強化を図った。

また休けい所「陽だまり」を開設し、住民の居場所として週1回運営した。令和2年度は1か所ではあるが介護保険制度について、出前講座を行うことができた。

④ 各種相談事業の実施

民生児童委員会、弁護士及び身体障害者相談員の協力を得ながら次の6種類の相談事業を実施した。

相談の種類	相談員	相談日	相談実績
一般相談	民生児童委員	毎週火曜日	1件
弁護士相談	弁護士 安西 敦	2カ月に1回	4件
身体障害者相談	県身体障害者相談員	第3金曜日	0件
介護相談	介護支援専門員・訪問介護員	月曜日～金曜日	340件
ボランティア相談	ボランティアコーディネーター	月曜日～金曜日	4件
電話・来所相談	社協事務局	月曜日～金曜日	432件

コロナ禍の影響から収入が減少した世帯からの電話相談が増加した。弁護士相談は、1回6人の相談枠であるが概ね75%の相談実績でやや増加した。

⑤ 生活福祉資金の効果的運用

県社協の委託事業として、生活福祉資金の貸し付け事業を実施している。新規借入件数は昨年度に比べ増加している。

令和2年3月末よりコロナ禍が影響し、収入が減少した世帯への貸付制度として「特例総合支援資金」、「緊急小口資金」の制度が追加となった。令和3年度も制度は継続されている。

＜生活福祉資金貸付事業＞

借入資金の種類	年度末件数	2年度中 新規借入件数	元年度中 新規借入件数
総合支援資金	0	0	0
総合支援資金（コロナ特例）	4 3	4 3	—
緊急小口資金	6	6	1 2
緊急小口資金（コロナ特例）	1 1 8	1 1 8	—
臨時特例つなぎ資金	0	0	0
教育支援資金	1	1	2
福祉資金	0	0	4
不動産担保型生活資金	0	0	0
国民年金の任意加入を含む年金の貸付	0	0	0
計	1 6 8	1 6 8	1 8

⑥ 日常生活自立支援事業の実施

県社協の委託事業として、高齢者や知的・精神障害者で判断能力に不安がある人を対象に金銭管理・福祉サービスの手伝いを行う日常生活自立支援事業を実施した。年度ごとの利用者状況は次のとおりである。

年度	高齢者	知的障害	精神障害	その他	計
平成 28 年度	1 9	5	1 4	1	3 9
平成 29 年度	3 3	4	1 1	1	4 9
平成 30 年度	2 5	4	1 2	1	4 2
令和 元 年度	2 2	6	1 1	3	4 2
令和 2 年度	1 6	7	1 1	4	3 8

判断能力の低下等により、日常生活自立支援事業から成年後見制度への移行を親族等と相談し、成年後見制度への移行をした方や移行を考えて動き始めた方、また成年後見制度の利用はせずに親族へ通帳等の預かり物を返還した方等により、高齢者の利用者が減少した。今後は、日常生活自立支援事業を利用開始時は判断能力があったが、年数の経過とともに判断能力の低下が見られる方の成年後見制度への移行等、親族と調整しながら対応していく必要がある。

⑦ 高齢者福祉サービス事業の充実

在宅の高齢者及び障害者の日常生活や自立に向けた取り組みを支援するために次の事業を実施した。老人配食サービスについては、配食していただくボランティアの募集など、当日の配食に支障のないように努めた。



〈老人配食サービス〉

区 分	老人配食サービス事業	車椅子貸出事業	「陽だまり」お風呂
平成 28 年度	5,124 食（114 名）	4 8 件	5 名
平成 29 年度	4,800 食（122 名）	4 2 件	7 名
平成 30 年度	5,515 食（132 名）	3 6 件	9 名
令和元年度	6,039 食（136 名）	3 8 件	8 名
令和 2 年度	6,087 食（136 名）	1 9 件	9 名
備 考	毎週水曜日（月 4 回）		#1:月・水・金 #2:火・木・土

また、共同募金の助成金による高齢者見舞金配布事業として、民生児童委員の一人暮らし高齢者名簿を利用して、80 歳以上の一人暮らし高齢者に対し 3 千円を配布した。

〈高齢者見舞金事業対象者〉

区 分	一人暮らし高齢者（80 歳以上）
平成 2 8 年度	1 7 9 名
平成 2 9 年度	1 8 8 名
平成 3 0 年度	2 0 3 名
令和 元 年度	2 0 3 名
令和 2 年度	2 1 4 名

⑧ ファミリー・サポート・センター事業

（地域の方が会員となって、一時的な子育てを助け合う有償ボランティア組織）

＜令和 2 年度登録会員数、活動件数、援助活動内容と件数の内訳＞

登録会員数 (R2.4～R3.3 末)	おねがい会員	2 7 8 名	合計 4 3 1 名
	まかせて会員	1 0 7 名	
	どっちも会員	4 6 名	
活動実績 (R2.4～R3.3 末)	援助活動件数の内訳		活動件数
	①保育施設等への前後の預かり		4 2
	②保育施設等への送迎		6 4
	③児童クラブへの前後の預かり		1
	④児童クラブへの送迎		1
	⑤子どもの習い事等への送迎		1
	⑥自宅・祖父母宅への送迎		2 5
	⑦保護者等の仕事の際の援助		2 2
	⑧保護者等リフレッシュのための援助		5
	⑨保護者等の外出の場合の援助		6
	⑩他の子どもの行事の場合の援助		3
	⑪保護者等の病気・通院のための援助		4
	⑫公共施設・施設への送迎		3
	⑬保護者等の職場への送迎		1
	合 計		1 7 8

2月下旬以降新型コロナウイルスの影響により活動件数が大幅に減少し、新規サポートの依頼もなくなった。ファミサポで加入している保険では、感染症にかかる補償はないため、今後の事業実施についてセンターとして両会員の健康及び安全の確保を優先しながら進めていくこととする。

また、令和元年より始まった「幼児教育・保育の無償化」に伴い、ファミサポの講習において、「緊急救命講習及び事故防止に関する講習について、援助を行う会員全員に対して、少なくとも5年に1回必ず実施」するようにと具体的な数字が書き加えられるなど、「質の確保」が重点視されている。子どもを預かることのできる方（まかせて会員・どっちも会員）の新しい成り手の拡充を図るとともに、今後も現会員の研修時間が、厚生労働省の推奨する研修時間数に近づくよう、会員に講座の受講を促すとともに、預かり時の事故防止等について、引き続き講習会を実施していきたい。

＜令和2年度研修会、交流会回数と内容＞

	回 数	参加人数	内 容
研修会	1	7	養成講座
交流会	0	0	実績なし
講演会	0	0	実績なし

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止と利用者の健康及び安全の確保を優先し、3月に予定していた会員ミーティング・スキルアップ講座・交流会等は中止

#### ⑨ 地域支え合い推進（生活支援体制整備事業）

平成29年4月に設置された協議体（地域支え合い「陽だまりうたづ」）の構成員は2年間の委嘱期間であり、平成31年4月及び令和2年4月の再委嘱を経て、現在3期目の継続期間中である。令和2年度の目標は、ちょっとした生活の困りごとを、生活支援コーディネーターとともに住民同士の支え合いや助け合いで解決していくことと位置づけた。

令和2年度は十楽寺地区に出向き、高齢化していく地区内でどのようにして住民同士の支え合いに協力できるかを探った。困り事のアンケートの個別調査などから、自治会館で住民同士の交流を図り、そこで生まれる支え合いに注目し地区住民にも呼び掛けを行った。コミュニティー分館でたくさんの住民の交流が増えるよう催事を提案し、そこで生まれる住民主体の助け合いが行われることが期待できるようになった。傾聴ボランティア、香川短大からも催事や個別傾聴できるよう依頼があり、たくさんの住民参加が望まれている。次年度以降も地区とのつながりを絶やさないように訪問することとしている。協議体（「地域支え合い うたづ」）は5回開催した。



#### ⑩ 子どもの未来応援事業の推進

子ども食堂運営事業「陽だまり食堂」は、コロナ禍のため毎月1回の開催ができなかったが、代替の行事として学校の臨時休業中に弁当配布を行った。第1回の冬休み企画では、前年度に参加していた世帯を招待し、第2回の春休み企画では、小中学校の先生や地域コーディネーター、相談支援センターとの協力を得て、支援が必要な世帯に対して弁当配布を行った。

今後もコロナ禍でも行える行事を探し、ボランティアとともに「地域で子どもに関心を持つ人や、見守る人の目を増やすこと、家庭・学校以外の子どもの居場所をつくり、子どもを一人にさせないこと、子どもが様々な大人と関わる機会・体験を増やすこと」を目指していく。

行事に組み込んだレクリエーションのピンポンボール作りは大盛況だった。町内の豆腐業者からは弁当につけるおやつも購入し、地域業者にも食堂継続に関わっていただいている。参加費はおとな300円、子ども100円で、参加者数の実績については次のとおりである。次年度も、参加者や保護者にもアンケート調査を実施し、ニーズを把握するとともに、ボランティアや関係機関との話し合いを持ち、今後の陽だまり食堂の運営について協議し、さらなる充実を図っていきたい。

#### <令和2年度子ども食堂運営事業 参加者数実績>

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
子ども	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	18
おとな	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	8
ボランティア	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	10

#### ⑪ うたづっこ育児用品レンタル・サポート事業の推進

宇多津町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援し、保護者の経済的負担を軽減することを目的に、チャイルドシート・ジュニアシート・ベビーカーのレンタル事業を行っている。

#### <令和2年度育児用品保有数と利用数>

	購入台数	寄付台数	合計保有数	返却数	貸出件数	年度末在庫
チャイルドシート	0	1	88	34	89	2
ジュニアシート	0	0	14	7	10	5
ベビーカー	0	2	47	28	28	3

レンタル事業品のメンテナンスの課題があるが、今後も、この事業が円滑に進むよう家庭で不要になった育児用品の寄付受けについて広報等で協力を依頼していきたい。

## (2) 介護保険事業の充実

### ① 訪問介護事業（ホームヘルパー）の充実

利用者のご逝去や入院及び施設入所など、利用減少の傾向が継続していることと、一昨年の介護保険改正による収入減少のため、昨年と同様、収入が24.4%減になっている。また、総合支援事業の利用者増加に伴い、今後は一層のサービス向上と利用者の獲得増加を図っていかなければならない。そのため高齢化する登録ヘルパーの退職に対応する要員確保及び事業拡大が図れる人材養成の継続が必須である。

#### <訪問介護事業の事業収入及び利用者>

(単位：千円、人数)

年 度	訪問介護事業収入	前年比	延べ人数	軽度生活支援事業収入
平成 28 年度	11,835	▲3.0%	415	636
平成 29 年度	9,548	▲19.4%	351	606
平成 30 年度	8,677	▲9.1%	329	426
令和元年度	7,559	▲13.0%	363	288
令和 2 年度	5,716	▲24.4%	274	361

### ② 居宅介護支援事業の充実

令和2年度の延人数は、11%減であり、事業収入は前年度比4.7%減となった。令和元年度の要支援者数は、235名（収益：848千円）、要介護者数は、588名（収益：6,465千円）で、令和2年度の要支援者数は、208名（収益：902千円）、要介護者数は、533名（収益：6,115千円）となっている。

令和2年度は、利用者が在宅から施設入所や逝去されたことによる影響のほか、職員の定年退職により他事業所への引き継ぎ移行による契約終了などもあり、事業所収入が減少した。

居宅介護支援事業所として、今後も利用者がその地域において、その有する能力に応じ、可能な限り自立した日常生活を営むことができるように支援をしていく必要がある。

#### <居宅介護支援事業の事業収入及び利用者>

(単位：千円・人数)

年 度	事業収入	前年比	対象者数(延人)
平成 28 年度	6,380	6.8%	720
平成 29 年度	7,125	11.6%	754
平成 30 年度	6,960	▲2.3%	814
令和元年度	7,349	6.0%	824
令和 2 年度	7,017	▲4.7%	741



### ③ 通所型サービスA事業所の充実

利用者は3名（火曜日1名・木曜日2名）であり、家庭的な雰囲気で行なうデイサービスを楽しみに利用いただいている。事業収入については、令和元年度452,700円から令和2年度322,200円に減額となった。これについては利用者の減と入院及び高齢者ゆえの体調不良により当日不参加が重なったためである。利用減少は今後も続くと予想されるため、地域包括支援センターとの連携のもと、サービス継続の可否も視野に入れながらも利用者増に資する検討を重ね、本サービスの充実発展を期していく。

## （3） 障害者自立支援事業の充実

### ① 障害者福祉サービスの充実

居宅介護については、前年度より少しではあるが増加している。移動支援についても少しではあるが増加している。また同行援護については、1名利用者が増えたものの利用頻度が少なく僅かな増加となった。利用者の加齢とともに障害保険から介護保険への移行も考えられることから、各相談支援事業所への働きかけが必要である。訪問介護と同様に事業拡大のため、登録ヘルパーの人材確保の継続が必須である。各年度のサービスごとの収入の結果は、次のとおりである。

（単位：千円）

区 分	居宅介護	移動支援	同行援護	難病患者等	計
平成28年度	1,569	395	683	0	2,647
平成29年度	1,149	220	471	0	1,840
平成30年度	1,008	230	0	0	1,238
令和元年度	965	221	0	0	1,186
令和2年度	1,468	273	10	0	1,751

## （4） 生活困窮者自立相談支援事業の推進

### ① 包括的かつ継続的な相談支援

生活困窮に関する課題は、経済的な問題のみならず社会的な孤立や医療問題、DV、障害等が折り重なって、複合的な問題を抱えており、本人だけでなく世帯全体が困窮しているため、世帯全体の支援に志向し、継続して取り組んでいる。

相談実績は以下のとおりである。

区分	年間合計	男性	女性	～10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	不明
相談件数	12	7	5	0	2	1	5	1	2	1	0

## ② 生活困窮者支援を通じた地域づくり

生活困窮については、福祉教育や個別支援を通じて理解者を地域に増やしていく事で、支え合いの輪を拡げて、誰もが住み易く、排除しない地域を創造していくことが重要であり、支える側と支えられる側が互いに支え合える地域づくりを目指した。

## ③ 香川おもいやりネットワーク事業の推進

社会福祉協議会が社会福祉法人施設や民生委員・児童委員と繋がり、支援を必要とする方を「地域でトータルにサポートする仕組み」をつくり、「香川型福祉でまちづくり」を目指し、下記の会議を開催した。

### 〈 香川おもいやりネットワーク事業 宇多津担当者会 開催状況〉

開催日	場 所	会議内容	参加者
R2. 7. 21	あみのうら交流センター	・香川おもいやりネットワークの現状について ・令和元年度 地域共生社会実現に向けた包括的体制事業の振り返りについて	県社会福祉協議会 2名 社会福祉法人 1名 民生・児童委員 1名 保健福祉課 1名 包括支援センター 2名 社会福祉協議会 2名
R2. 10. 20	あみのうら交流センター	・相談窓口事例検討について ・今度の活動について ・その他、情報交換	民生・児童委員 1名 包括支援センター 2名 社会福祉法人 2名 社会福祉協議会 2名
R3. 3. 24	あみのうら交流センター	・令和2年度活動報告について ・今後の活動について ・その他・情報交換	民生・児童委員 1名 社会福祉法人 3名 包括支援センター 1名 社会福祉協議会 1名

地域協力活動	R2. 7. 21	おもいやりネットワーク会議
	R2. 7. 30	第 20 回協議体
	R2. 9. 30	第 21 回協議体
	R2. 10. 20	おもいやりネットワーク会議
	R2. 11. 10	巡回型福祉まるごと相談
	R2. 12. 14	巡回型福祉まるごと相談
	R3. 1. 25	巡回型福祉まるごと相談
	R3. 1. 29	地域支え合い うたづ
	R3. 2. 24	出前講座
	R3. 3. 24	おもいやりネットワーク会議
	R3. 3. 23	地域支え合い うたづ



(5) ボランティア活動の推進

① ボランティア連絡協議会への参加及び協力

事務局として、毎月の定例会、総会及び研修会等に積極的に参加し、ボランティア活動を推進した。坂出青年会議所と連携し、顔の見える関係づくりを行った。加入団体は23団体となっている。

② 福祉・ボランティア体験の推進

「うたづっこふくしセミナー」の開催、「福祉体験学習」は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

夏休み中学生ボランティア体験学習、ボランティア銀行の運営を次のとおり実施した。

a 夏休み中学生ボランティア体験学習

例年多くの学生がボランティアに参加し、受け入れ先も充実していたが、2年度はコロナ対策で活動自体に学校側が制限をかけ、受け入れ先が限定されたため、駅前清掃と配食ボランティアの2つの活動となった。今後も学校と連携を取りながらボランティア活動を推進していく。

	開催日	場 所 等	学 習 内 容	参加人数
1	R2.8.2	JR 駅前清掃	駅前清掃ボランティア体験	90名
2	R2.8.5 8.12 8.19	あみのうら交流センター	老人配食給食配達ボランティア体験	6名

延べ：4日

延べ：96名

b 勇心酒造㈱ボランティア銀行の運営

ボランティア銀行事業の取組みは、全国的に注目されている。宇多津町内小・中学校応援プロジェクトと連携し、住民総ぐるみで子どもたちの成長を応援し、子どもたちはボランティア活動をとおして思いやりの気持ちを育くんでいる。

(a) ハート数の推移

令和2年度のボランティア銀行の預金額は、700,487ハートとなり、これまでの推移は以下のとおりである。

年 度	ハート数
平成28年度	1,165,477 
平成29年度	934,606 
平成30年度	908,558 
令和元年度	733,744 
令和2年度	700,487 

また、各学校のハート数は以下のとおりである。

学 校 名	令和２年度(ハート)	令和元年度(ハート)
宇多津小学校	163, 030 ♡	101, 902 ♡
宇多津北小学校	498, 607 ♡	454, 592 ♡
宇多津中学校	38, 850 ♡	177, 250 ♡
合 計	700, 487 ♡	733, 744 ♡

(b) ボランティアハートの贈呈先一覧

学校名	贈呈先	贈呈品
宇多津小学校	みんなで咲かそう花の会	花植え事業活動資金
	レスパスラボ	子ども食堂運営資金
	社会福祉協議会	善行賞表彰費用
宇多津北小学校	ボランティア推進委員会	駅前清掃活動資金
	ユープラザうたづ	肘無椅子購入資金
	社会福祉協議会	ボランティア通帳購入資金
宇多津中学校	民生員児童委員協議会	オレンジリボンキャンペーン事業
	十楽寺自治会	おでかけバス待合ベンチ購入費用
	ボランティア推進委員会	駅前清掃活動資金

③ 防災研修会の開催

災害ボランティアセンターを速やかに立ち上げ、運営できることを目的として、令和２年８月と令和３年２月に防災研修会の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

(6) 福祉関係団体等活動協力と連携

① 民生児童委員協議会との連携

社会福祉協議会の運営において、民生児童委員との連携・協働は重要不可欠であり、相談事業をはじめとして、香川おもいやりネットワーク事業、高齢者・一人暮らし老人の情報の共有、老人配食サービスの配食、高齢者見舞金配布事業、共同募金活動、生活福祉資金貸付業務等において協力を得て事業を実施した。今後とも、相互の会合及び研修等に積極参加して、より緊密に連携を継続していく。事業ごとの実績については、他の項目で記載のとおり。

② 老人クラブ連合会・身体障害者協会への参加協力

事務局として、総会・定例会、各種行事への協力及び文書管理を行った。

③ 福祉団体への援助

ボランティア連絡協議会加盟の団体へ各種補助金等の提供を行った。



(7) 権利擁護の推進（法人後見事業）

認知症高齢者、知的障害者及び精神障害者など意思決定が困難な人の判断能力を補うため、社会福祉協議会が成年後見人等となり、その権利を擁護するための事業を平成29年4月より開始している。

今年2年度は、令和2年6月に第1回法人後見運営委員会を開催した。

現在の受任件数は2件である。

(8) 法人運営の強化

① 自主財源の確保

自主財源確保には香典返し等寄付金の使途の明確化を進める必要があり、周知・広報に努めた。令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受け、一般寄付金は増額したが、香典返し寄付金は0円となりトータルで減額となった。

年度ごとの状況は次のとおりである。

<寄付金の推移>

年 度	香典返し		一般寄付		合計金額
	件 数	金 額	件 数	金 額	
平成28年度	11	410,000	10	342,017	752,017
平成29年度	6	220,000	10	179,000	399,000
平成30年度	5	200,000	9	174,480	374,480
令和元年度	2	600,000	5	80,296	680,186
令和2年度	0	0	9	438,000	438,000

会員の増加に努めたものの、コロナ禍の影響を受け、会員数及び会費合計額は昨年度より大きく減少した。会費の使われ方を法人、団体、個人に明確に詳細に説明し、共感していただくことに努め、今後の会員の増加に努めていきたい。

<会員数の推移>

年 度	社協役員	団体会員	個人会員	法人会員	会費
平成29年度	25 名	63 団体	209 名	78 法人	671,100 円
	165 口	867.5 口	549.5 口	1,590 口	
平成30年度	24 名	62 団体	203 名	72 法人	608,364 円
	165 口	878 口	543 口	1,420 口	
令和元年度	24 名	72 団体	265 名	82 法人	680,300 円
	190 口	1,611 口	439 口	1,571 口	
令和2年度	25 名	66 団体	17 名	2 法人	368,300 円
	190 口	1,332 口	73 口	95 口	

② 広報・啓発活動（情報誌「社協通信」の発行）

社協事業を広く町民に周知する目的で情報誌「社協通信」を毎月発行し、町広報と同時に配布した。

③ 各種研修会等への参加

社協職員の資質向上を目指して県社協、県施設協会等の研修会に積極参加した。今後も香川県社会福祉協議会等が開催する研修について、積極的に参加し、専門知識の取得を図っていく。

（９） その他福祉活動への協力

① 共同募金運動への協力

宇多津町共同募金委員会に協力して、募金活動に参加した。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、街頭募金運動・歳末たすけあいチャリティー即売会等の募金活動が実施できず、目標額 4,230,000 円に対し 3,622,269 円を集め、県共同募金会に送金した。

また、期間拡大による募金活動「宇多津町内小・中学校応援プロジェクト募金」を 1 月 1 日から 3 月 31 日まで実施し、目標額 1,300,000 円に対し 1,459,647 円を集め、県共同募金会に送金した。

本町への助成金は地域福祉推進事業として、2,536,778 円、小・中学校応援プロジェクト事業として 1,404,626 円であり、以下の事業を実施した。

災害見舞金は、熊本県共同募金会 32,473 円を送金した。

<社会福祉協議会事業への助成>

番号	事業名	事業内容	助成額
1	ふれあいいきいきサロン事業	ふれあいいきいきサロン活動助成費用（1 団体 年間 1.2 万円～2 万円）	200,000 円
2	ボランティア活動推進助成事業	ボランティア連絡協議会活動費用 開催費用	146,778 円
3	一人暮らし高齢者見舞金配布事業	80 歳以上の 1 人暮らし高齢者のお見舞金費用	300,000 円
4	心配ごと相談事業	弁護士相談費用	120,000 円
令和 2 年度 社会福祉協議会事業 助成額合計			766,778 円



<各種団体への助成>

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	子育て支援推進事業 (ボランティア「モコモコ」)	核家族化が進む新都市を中心に、地域の人が交流できるイベントを開催し、交流の場を提供する。	170,000 円
2	身障者外出支援事業 (身体障害者協会)	身体障がい者の外出を支援することにより、社会参加を促し、会員同士の親睦を深める活動。	30,000 円
3	外出支援事業 (老人クラブ連合会)	高齢者の外出を支援することにより社会参加を促し、ひきこもりを防止し、仲間づくりを行う。	30,000 円
4	子育て支援事業 (あおやま保育園)	園が発信する情報を通して、地域福祉活動に関心が高まり、家庭、保育園、地域が連携し、子育ての輪を大きく広げられる。	180,000 円
5	子育て支援事業 (青山幼稚園)	日除けを取り付けることで、園児が靴箱や手洗い場を使用する際に、暑さを緩和させることができる。	160,000 円
6	環境衛生推進事業 (宇多津町婦人会)	町民にゴキブリ団子を配布することにより、衛生管理に対する意識を高め、地域の衛生環境を整える。	140,000 円
7	障害者ふれあいサポート事業 (カノンの会)	就労支援している事業所の見学研修を行い、これからの暮らしについて考え、活動の輪を広げる。	80,000 円
8	生活発表会用楽器購入事業 (平山こども園)	新しいスネアドラムは良く響き、園児の肩に食い込まない構造なので、マーチング体型移動に子どもたちが集中でき、演奏の上達が期待できる。	100,000 円
9	障がい児支援事業 (NPO 法人メロディー)	講演会を開催することによって、これまで知らなかった知識を得ることができ、「共感」が生まれる。	150,000 円
10	子育て支援事業 (香川短期大学附属幼稚園)	収納台車を購入することで、出し入れの時間が少なくなり、園児の遊ぶ時間を長く取れるようになり、子どもたちが満足いく活動時間を確保できるようになる。	100,000 円
11	手話ボランティア養成事業 (手話サークルにこにこ)	月に2回手話サークルを開催する。将来は、講演会等で手話通訳ができることを目指す。	30,000 円
12	障害者支援事業 (ドリームパラダイス)	掃除機が老朽化し、吸引力が下がっている。また、利用者が使用するには重く、使いにくいので、扱いやすい掃除機が必要。	90,000 円
13	傾聴ボランティア養成事業 (傾聴ボランティア「コミコミ」)	傾聴ボランティア養成講座を開催し、傾聴の理念、技法を学ぶ	30,000 円
14	子育て支援事業 (わかくさ保育園)	最近、楽器の故障や、良い音色が出ないものがある。新たな音色と出会うことにより、子どもたちの演奏への意欲の向上を図る。	100,000 円

15	子育て支援事業 (わかくさ北こども園)	楽器の購入により、新たな音色と出会うことができ、年長児が演奏することによって、自信をつける効果が期待できる。	100,000 円
16	国際文化交流事業 (せとうち国際文化の会)	子どもたちを含めたボランティアガイドを養成することで、外国人への理解にもつながり、身近に国際交流ができる。	90,000 円
令和 2 年度一般募金助成合計額			1,580,000 円

＜小・中学校応援プロジェクト募金助成金＞

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	あいさつの花を育てて、宇多津の町を花いっぱいにする活動 (宇多津小学校)	あいさつを啓発する植木鉢を作成し、「あいさつの花をさかせよう」を合言葉に、直接児童が地域住民の皆様に植木鉢を持っていき、募金のお礼と、あいさつをひろげようとする気持ちを伝える。	10,313 円
2	横断旗購入事業 (宇多津小学校)	横断旗を購入することにより、児童の通学が安全になり、また、保者間の交流、親睦を深めることができる。	13,768 円
3	陸上クラブのユニフォーム購入事業(宇多津小学校)	春、秋の陸上大会に参加しているが、ユニフォームは長年使用してきたため痛んでおり、新規に新しいユニフォームを購入したい。	110,880 円
4	自転車を安全に乗るための自転車用交通安全シートの作成・配布事業 (宇多津北小学校)	3年生以上の児童に、自転車の左側通行の徹底や交差点を渡るときの注意等をわかりやすくデザインしたゴム製シートを作成し、自転車に装着することで、常に安全運転を意識できるようにする。	66,000 円
5	ユニフォーム購入事業 (宇多津北小学校)	ユニフォームは平成3年の開校当時からのもを現在も着用しており、レニヤードの老朽化が著しいので、少しずつ購入する。	297,800 円
6	グッドカードバッジ作成事業	善い行い、積極的な活動、あいさつ等に頑張った生徒に、グッドカードバッジを手渡し、より一層の善行活動につなげる。	110,880 円
7	ボランティア銀行事業 (社会福祉協議会)	小・中学生が地域のボランティア活動に参加することによって、地域とのつながりが強くなり、ボランティア活動を通じて思いやりの気持ちを育む。	634,709 円
令和 2 年度プロジェクト募金助成合計額			1,244,350 円